

重要なシーン、緊張感

大江「いしや先生」撮影佳境

西川町大井沢で地域医療に生涯をささげた医師志田周子(ちかこ、1910〜62年)を描く映画「いしや先生」の撮影が佳境を迎えた。7日は大江町柳川で、吹雪を突いて患者を搬送する印象的な場面の撮影が行

われた。

「いしや先生」は西川町の町民有志らで組織する「志田周子の生涯を銀幕に甦(よみがえ)らせる会」が製作費の募金活動を展開するなどし、映画化を実現させた。あべ美佳さん(尾

花沢市出身)が脚本を担当し、永江二朗監督の陣頭指揮で昨年10月から県内各地でロケを行ってきた。

6〜8日に西川、大江両町で真冬のシーンを撮影しロケは全て終了する予定で、この日は、重篤な患者を設備の整った隣村の病院に搬送するため村人が箱ぞりを引いて峠を越えようとする場面の撮影が行われた。

「あいにくの好天」となったため粉雪を大型送風機で飛ばして猛吹雪を再現。本番のために雪原に足跡を残さないよう、違う場所でも度々リハーサルを繰り返した。豪雪地域に暮らす人々の苦しみや、周子が直面したへき地医療の厳しい現実を伝える印象的な場面とあって、周子役の平山あやさんをはじめ、地元エキストラたちは、監督の指示を一言一句聞き漏らさないよう集中を高めて撮影に臨んでいた。

永江二朗監督(奥・左)の指示を受けながらリハーサルを繰り返す志田周子役の平山あやさんと地元エキストラ



大江町柳川